

2020年2月3日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 寺原 譲治

パプアニューギニア国トクア空港整備事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2020年1月20日(月) 14:00~17:20
- ・場所：JICA 本部 (1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、源氏田委員、寺原委員、長谷川委員
- ・議題：パプアニューギニア国トクア空港整備事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) 【事前配布資料】パプアニューギニア国トクア空港整備事業(協力準備調査(有償)) SC案
 - 2) 回答表及び配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第110回委員会)

- ・日時：2020年2月3日(月) 14:00~17:10
- ・場所：JICA 本部(1階 111+112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 地域開発の傾向を踏まえ、経済成長率、人口動態、観光客数を根拠として、2040年までの旅客の需要の予測を示し、DFRに記載すること。
2. 空港工事・整備に伴い、ココポートクア回廊の交通量が増えることが予測されるため、道路整備及び管理に適切な体制を構築するよう州政府に申し入れること。
3. スコーピングで選定された各影響項目について、できるだけ客観的・現実的な予測方法を検討し、それらの結果とともにDFRに記載すること。

代替案の検討

4. 採石場などの関連施設調査の結果、複数の候補地が存在する場合には代替案の検討を行うこと。
5. 代替案比較において、「事業を実施しない案」についてもできるだけ合理的な説明をすること。

スコーピング・マトリックス

6. スコーピング表の「✓」づけにおいて、各影響項目間の評価結果が整合するようDFRでの「評価理由」の記載を工夫すること。

環境配慮

7. 空港利用者の増加に伴い、今後さらに廃棄物量が増加すると見込まれるが、空港内のオープンダンプサイトでは十分な対応ができないと想定されるため、敷地内における焼却場の設置の検討、ラニオロ処分場への運搬・投棄等による適切な処理の実施をNAC（空港公社）に申し入れること。
8. 空港周辺を生息地域に含む動植物として、危急種（VU）以上の動植物種が、17種リストアップされているため、現地調査による生息状況の確認に加え、専門家のヒアリングを合わせて行うこと。
9. 送電線建設の必要性の確認と設計の詳細について、最新の情報を入手した上で予測評価に反映させ、DFRに記載すること。
10. 近隣住民より航空機騒音に対する懸念が示されていることから、慎重に騒音調査を実施し、必要に応じ、対策を講じることをDFRに記載すること。

以上